カタクラ

2022年12月期第２四半期　決算説明会資料

片倉工業株式会社

（コード：3001　東証スタンダード）

2022年８月30日

目次

1．2022年12月期第２四半期　決算概要

連結損益計算書

連結損益計算書／セグメント別実績

連結貸借対照表

連結キャッシュフロー計算書

2．2022年12月期　通期業績予想

連結損益計算書／通期予想

連結損益計算書／セグメント別予想

医薬品事業について

機械関連事業について

不動産事業について

3．株主還元について

1．2022年12月期第２四半期　決算概要

連結損益計算書

（単位：百万円）	2022.1-6実績	2021.1-6実績	前期増減	2022.1-6予想	予想との差異
	A	B	A-B	C	A-C
売上高	**17,164**	22,014	▲ 4,850	17,500	▲ 336
営業利益	**14**	3,060	▲ 3,046	100	▲ 86
営業利益率	**0.1%**	13.9%	▲ 13.8	0.6%	▲ 0.5pt
経常利益	**639**	3,526	▲ 2,887	750	▲ 111
特別利益	**1,097**	3,874	▲ 2,777	–	–
特別損失	**–**	102	▲ 102	–	–
税引前利益	**1,737**	7,298	▲ 5,561	–	–
親会社株主に帰属する当期純利益	**1,631**	5,073	▲ 3,442	1,350	281

【売上高・営業利益】
- 減収減益（詳細は次ページ）

【特別利益】
- 2022年
  - 固定資産売却益　461M
  - 投資有価証券売却益　636M
- 2021年
  - 固定資産売却益　3,771M
  - 投資有価証券売却益　102M

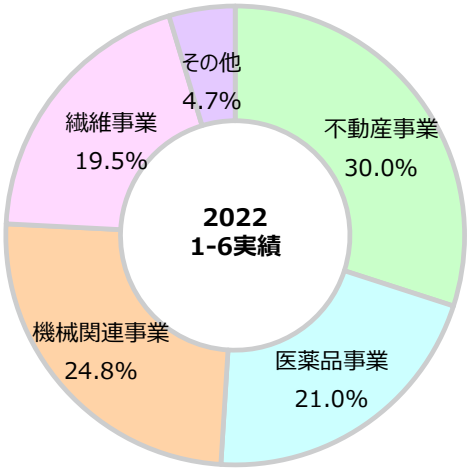
【特別損失】
- 2021年
  - 割増退職金　102M

【売上高・営業利益・経常利益】
医薬品事業にて、自社販売体制への商流切り替えによる一時的な売上減少を一定程度見込んでいたものの、従来の販売委託先の在庫消化が想定より遅れたこと等による影響から売上高、営業利益及び経常利益は、前回発表予想を下回る。

連結損益計算書／セグメント別実績

（単位：百万円）	2022.1-6実績		2021.1-6実績		前期増減		
	A		B			A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益		売上高	営業利益
不動産事業	**5,142**	**2,004**	5,021	1,961	①	121	43
医薬品事業	**3,605**	**▲ 1,995**	7,084	628	②	▲ 3,479	▲ 2,623
機械関連事業	**4,265**	**75**	5,818	521	③	▲ 1,553	▲ 446
繊維事業	**3,350**	**269**	3,160	398	④	190	▲ 129
その他	**800**	**113**	928	118	⑤	▲ 128	▲ 5
調整額	**－**	**▲ 452**	－	▲ 567		－	115
合計	**17,164**	**14**	22,014	3,060		▲ 4,850	▲ 3,046

セグメント別売上高構成比



①：不動産で増収・増益
- ショッピングセンター「コクーンシティ」においてテナント売上が回復傾向にあることや、2021年10月に福島ショッピングセンターが開業したこと等により増収・増益

②：医薬品で減収・減益
- 自社販売体制への切り替えのための一時的な販売減等により大幅な減収・営業赤字

③：機械関連で減収・減益
- 消防自動車事業で新型コロナウイルス感染症拡大の影響による地方公共団体からの更新需要の減少やシャシ(※)の納入遅延による期ズレ等により減収・減益

(※)：自動車のエンジン、シャシフレーム等走行に係る基本部分（車体）をいう。

④：繊維で増収ながらも減益
- 実用衣料の肌着及び耐熱性繊維等の機能性繊維が堅調に推移したことにより増収
- 急速な円安進行の影響による仕入原価の増加等により減益

⑤：その他で減収・減益
- 訪花昆虫の出荷減等により減収・減益

連結貸借対照表

（単位：百万円）	2022.6	2021.12	前期増減
	A	B	A-B
流動資産	**54,470**	57,059	▲ 2,589
固定資産	**83,208**	82,914	294
有形固定資産	**43,876**	44,789	▲ 913
無形固定資産	**344**	361	▲ 17
投資その他の資産	**38,986**	37,763	1,223
投資有価証券	**35,287**	34,151	1,136
資産合計	**137,678**	139,973	▲ 2,295
負債合計	**53,714**	52,362	1,352
支払手形及び買掛金	**3,212**	4,377	▲ 1,165
借入金	**15,068**	11,017	4,051
未払法人税等	**867**	1,471	▲ 604
その他流動負債	**7,369**	8,213	▲ 844
純資産合計	**83,963**	87,611	▲ 3,648
資本剰余金	**5,977**	516	5,461
利益剰余金	**48,061**	47,095	966
その他有価証券評価差額金	**16,068**	15,593	475
非支配株主持分	**14,644**	25,042	▲ 10,398
負債･純資産合計	**137,678**	139,973	▲ 2,295

- 減収や債権回収に伴う売上債権の減
- 現預金の減等

- 償却による減

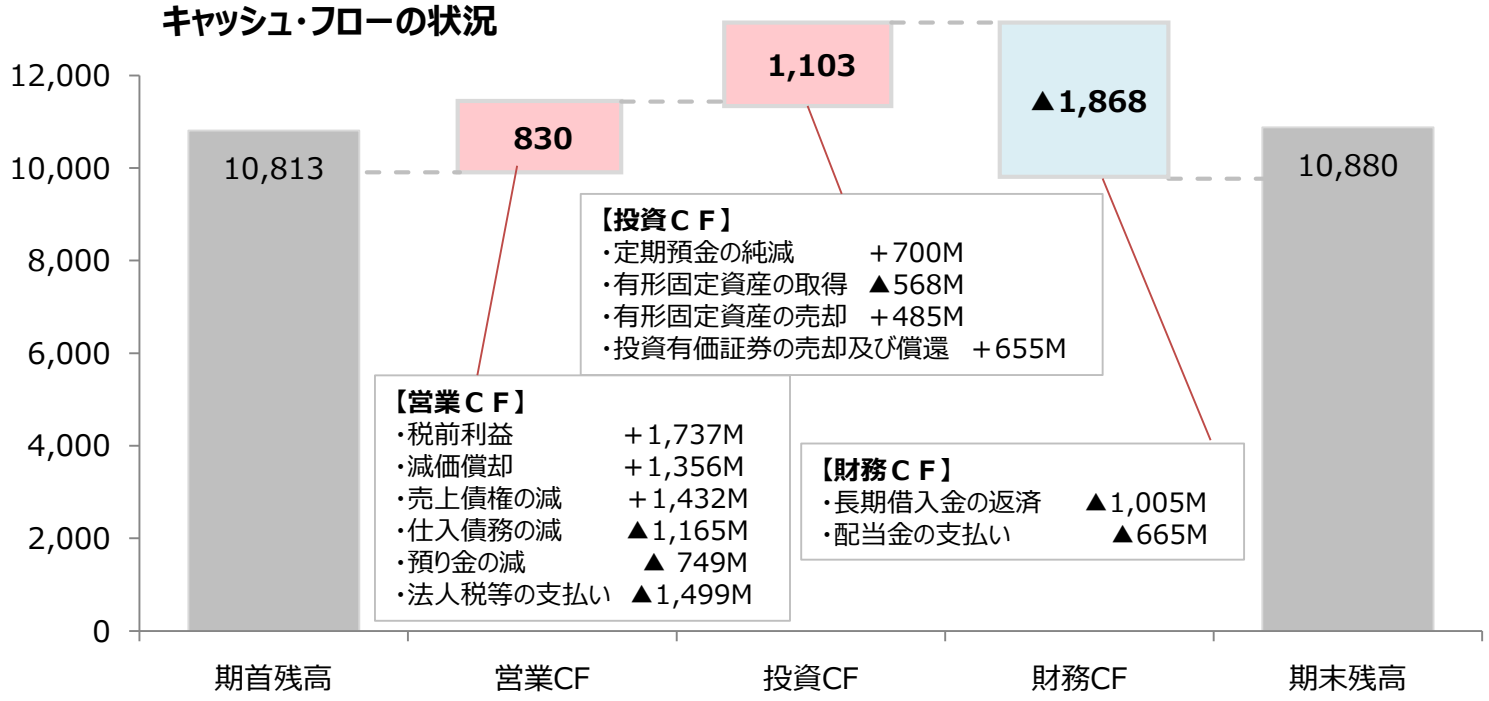
- 投資有価証券の時価差額

- 子会社株式の追加取得

連結キャッシュフロー計算書

（単位：百万円）	2022.1-6実績	2021.1-6実績
現金及び現金同等物の期首残高	10,813	8,017
営業活動によるキャッシュ・フロー	**830**	3,522
投資活動によるキャッシュ・フロー	**1,103**	2,794
財務活動によるキャッシュ・フロー	**▲ 1,868**	▲ 2,549
現金及び現金同等物の増減額	**66**	3,767
現金及び現金同等物の期末残高	**10,880**	11,785

キャッシュ・フローの状況



2. 2022年12月期　通期業績予想

連結損益計算書／通期予想

（単位：百万円）	2022予想	2021実績	前期増減
	A	B	A-B
売上高	**34,600**	37,627	▲ 3,027
営業利益	**1,000**	2,797	▲ 1,797
営業利益率	**2.9%**	7.4%	▲ 4.5pt
経常利益	**2,100**	3,855	▲ 1,755
親会社株主に帰属する当期純利益	**2,100**	4,953	▲ 2,853

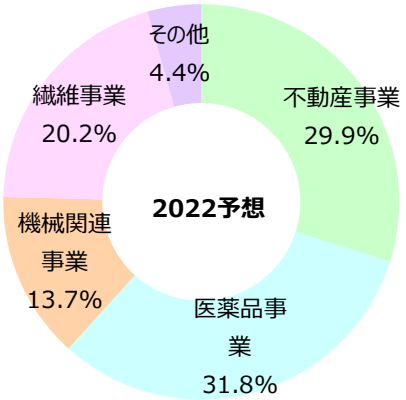
【売上高・営業利益】
- 減収減益の見通し（各セグメントの詳細は次ページ）

連結損益計算書／セグメント別予想

（単位：百万円）	2022通期見込		2021実績		前期増減	
	A		B		A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
不動産事業	**10,350**	**3,850**	10,125	3,590	① 225	260
医薬品事業	**11,000**	**▲ 1,650**	12,132	105	② ▲ 1,132	▲ 1,755
機械関連事業	**4,750**	**▲ 650**	7,171	47	③ ▲ 2,421	▲ 697
繊維事業	**7,000**	**400**	6,496	115	504	285
その他	**1,500**	**150**	1,702	138	▲ 202	12
調整額	**－**	**▲ 1,100**	－	▲ 1,200	－	100
合計	**34,600**	**1,000**	37,627	2,797	▲ 3,027	▲ 1,797

※上表の「2022通期見込」における各セグメントの売上高・営業利益は、2022年8月30日時点の見込値であります。

セグメント別売上高構成比



①：不動産で増収・増益
- **詳細は、P17～18ページに記載。**

②：医薬品で減収・減益
- **詳細は、P11～13ページに記載。**

③：機械関連で減収・減益
- **詳細は、P14～16ページに記載。**

【医薬品事業】2022年度 上期業績について

2022年度上期（1月～6月）

項　目	売　上	営 業 利 益
① 上 期 実 績	3,605百万円	△1,995百万円
② 前 年 同 期	7,084百万円	628百万円
③ 当 初 予 想 ※	4,000百万円	△1,700百万円
④ 前 年 対 比	△3,479百万円	△2,623百万円
⑤ 予 想 対 比	△395百万円	△295百万円

前年対比コメント

- 構造改革の一環として取り組んだ自社販売体制への商流切り替えが、2022年4月より全製品にて開始。
- これに伴い、2022年1月から3月までは、従来の販売委託先の在庫消化期間との位置づけとなった。結果として売上は僅かとなり、労務費等の固定費を吸収できず、大幅な減収、営業赤字となった。

予想対比コメント

- 従来の商流における販売委託先の在庫消化が、想定より遅れたこと等による影響から予想対比減収・減益での着地となった。

※決算短信(2022/ 2 /14付)の業績予想数値

【医薬品事業】2022年度 通期業績について

2022年度通期（1月～12月）

項　目	売　上	営 業 利 益
① 通 期 見 込	11,000百万円	△1,650百万円
② 前 年 同 期	12,132百万円	105百万円
③ 当 初 予 想 ※	11,200百万円	△1,600百万円
④ 前 年 対 比	△1,132百万円	△1,755百万円
⑤ 予 想 対 比	△200百万円	△50百万円

前年対比コメント

- 主要因は自販化に伴う減収減益影響（前ページ参照）
- その他、薬価改定に伴う売上減少や新薬パイプラインの開発ステージの進展等に伴う研究開発費増加も一因となり、前年対比大幅な減収・減益での着地となった。

予想対比コメント

- トルバプタンOD錠15mg「TE」の製造販売承認を8/15に取得、また本年6月から発売している同7.5mg「TE」は、心不全における体液貯留の効能効果を追加申請中。
- これらトルバプタンOD錠の寄与等により、通期の売上及び営業利益は予想対比微減を見込む。

※決算短信(2022/ 2 /14付)の業績予想数値

【医薬品事業】外部環境を踏まえた今後の方向性

□ 新薬パイプライン

- 大阪大学との共同研究案件CNT-01(※)は多少の遅延があるも比較的順調な経過
- 中長期での収益源獲得を目指し、引き続き高効率な外部アカデミアとの共同研究を追求していく方針
- また開発助成金の活用も念頭に循環器関連分野の希少疾病や難病分野も探索していく

(※)：中性脂肪蓄積心筋血管症治療薬

□ 製品承継・販売提携

- 即時に収益貢献を果たす承継・販売提携をもって、ベースの収益力向上を図る

□ 高効率な生産・販売体制

- 収益性向上を図るため以下の２項目を中心に検討を推進

①生産品目の見直しによる工場運営の効率化

②取り巻く環境に応じた販売体制の構築

【機械関連事業】2022年度 上期業績について

2022年度上期（1月～6月）

項　目	売　上	営 業 利 益
① 上 期 実 績	4,265百万円	75百万円
② 前 年 同 期	5,818百万円	521百万円
③ 当 初 予 想 ※	4,400百万円	150百万円
④ 前 年 対 比	△1,553百万円	△446百万円
⑤ 予 想 対 比	△135百万円	△75百万円

前年対比コメント

- 地方公共団体の予算減による受注数の減少
- シャシの入庫遅れにより、
  余剰工数の発生・見込納期の一部来期への繰り越し
- 材料費の高騰による原価増

予想対比コメント

- シャシの入庫が想定よりも更に遅延したことにより、
  差異が発生

※決算短信(2022/ 2 /14付)の業績予想数値

【機械関連事業】2022年度 通期業績について

2022年度通期（1月～12月）

項　目	売　上	営 業 利 益
① 通 期 見 込	4,750百万円	△650百万円
② 前 年 同 期	7,171百万円	47百万円
③ 当 初 予 想 ※	5,000百万円	△400百万円
④ 前 年 対 比	△2,421百万円	△697百万円
⑤ 予 想 対 比	△250百万円	△250百万円

前年対比コメント

- 地方公共団体の予算減による受注数の減少
- シャシの入庫遅れにより、
  余剰工数の発生・見込納期の一部来期への繰り越し
- 材料費の高騰による原価増

予想対比コメント

- 大型案件がシャシの入庫遅れにより、来年へ繰り越しとなる
- 年内に実施予定であった点検案件の来年への繰越

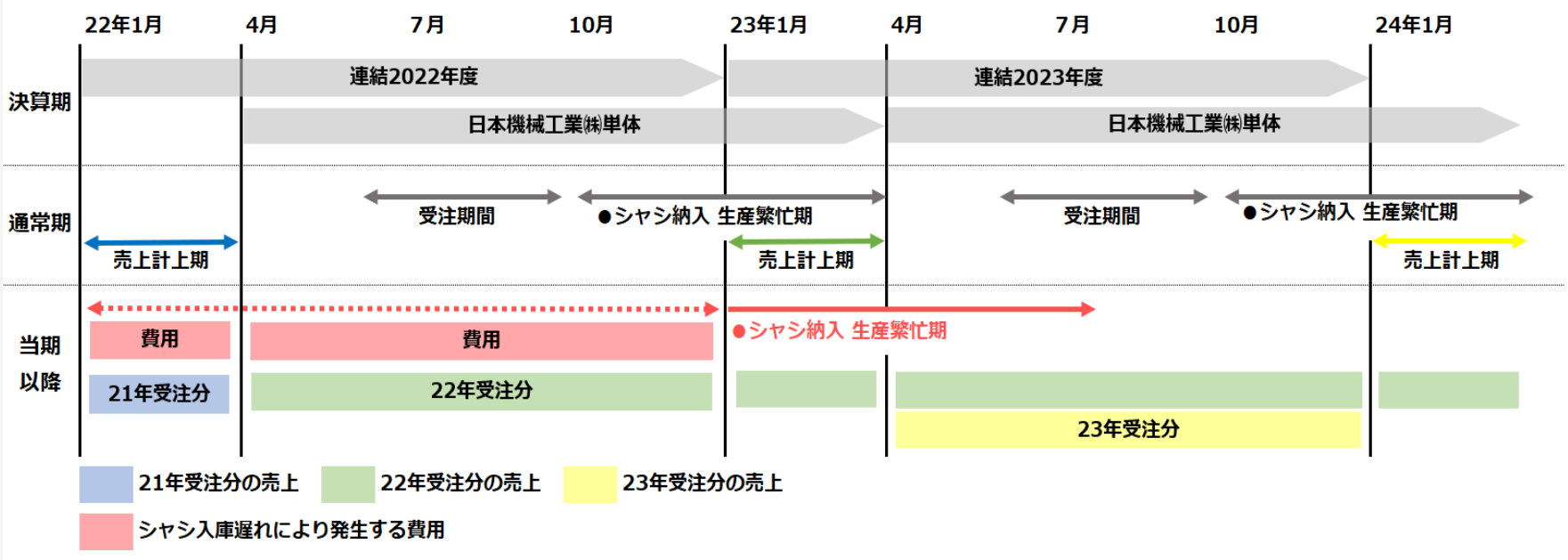
※決算短信(2022/ 2 /14付)の業績予想数値

【機械関連事業】売上時期の繰越・今後の施策

□ シャシ入庫遅れの発生要因

- 半導体不足
- シャシメーカーの品質問題

□ 売上時期の繰越



□ 今後の施策

- 閑散期で先行生産を行い、繁忙期の超過工数を削減する
- 車型の集約化・標準化を図る

→ 一層の生産効率化を図る

【不動産事業】 重点課題について

◻ さいたま新都心第三期開発の状況

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け一時凍結した上で、感染症の収束状況や、急速に変化する社会の変化等を踏まえて検討を継続することとしていた。

・現在も鋭意検討を進めているものの、以下要因から即時の着手は難しい状況にある。

①オフィスやホテル等の不動産需要の不透明感

②建築費高騰（解体費・新規投資ともに影響）

③既存施設の休業が前提のため、時期の見極め必要

◻ その他 新規案件について

・新規案件は適宜情報収集の上検討。併せて、構造改革によって新たに発生した開発可能な社有地や、グループ会社所有不動産を含めた社有不動産の有効活用の検討を進める。

※直近実績：2021年10月　福島ショッピングセンター開業
2022年 4月　松本住宅展示場開業

→新規開発は時期を見極める必要がある一方で、さいたま新都心においては、長期的な価値向上のため、既存施設のソフト・ハード面で鮮度維持を図り、最大限活用を行う。

【不動産事業】 コクーンシティにおける取り組みについて

テナントリニューアルや販促施策などウィズコロナ消費に合わせた取り組みが奏功し、年間売上高はコロナ禍以前の水準にまで回復しつつある。

引き続き、ソフト・ハードの両面でブラッシュアップを行い、エリアとしての魅力度を向上を図る。

テナント入替の推進

昨年の40店舗に引き続き、本年は25店舗のリニューアルを推進。８月には海外ブランドのポロ ラルフ ローレン、トミー ヒルフィガー、カルバン クラインの３店舗が、秋には世代を超えて楽しめるジャンプショップほか10店舗が新たにオープン。

開放的な屋外くつろぎ空間が登場

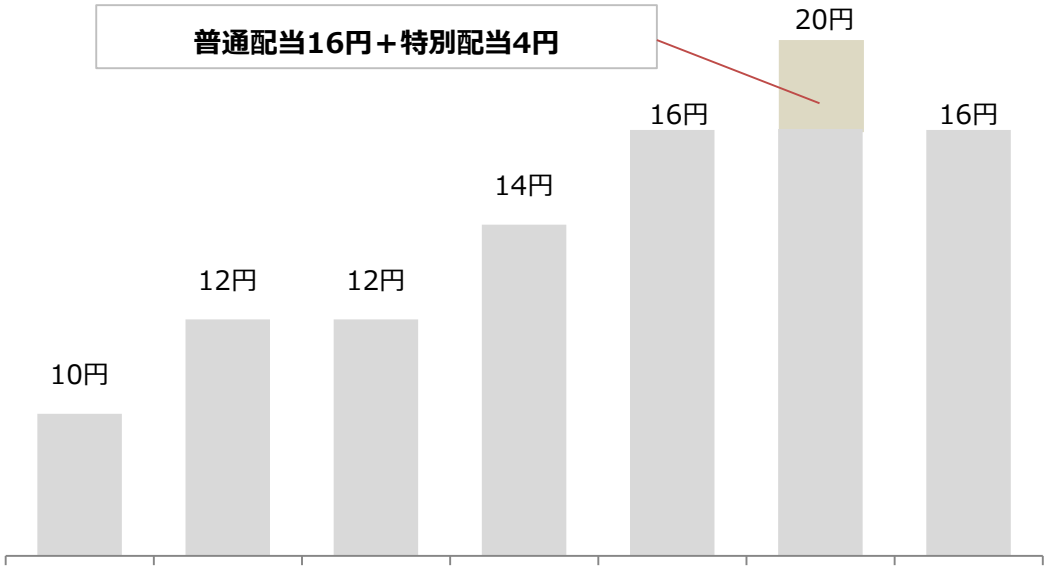
食事をしたり読書をしたり、お買い物のひと休みにも。
PARK MALL（パークモール）をコンセプトに、思い思いの時間を過ごせる屋外のくつろぎ空間を来春に向けて整備。

3. 株主還元について

株主還元（利益配分）

＜利益配分の方針＞

- 当社は、株主の皆様への利益還元を、経営上重要な政策の一つに位置付けております。
- 利益の配分については、安定配当の実施を基本とし、業績や今後の事業展開、内部留保の水準及び配当性向等を総合的に勘案のうえ、配当を行うこととしております。



	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022 予想
純利益（百万円）	1,691	1,224	1,283	1,732	2,871	4,953	2,100
１株当たり当期純利益（円）	48.11	34.83	36.56	49.42	82.71	147.56	63.22
配当性向（%）	20.8%	34.5%	32.8%	28.3%	19.3%	13.6%	25.3%